

三里塚・ジェ ト闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

千葉運輸区支部

先陣をきって支部定期大会を開催

12月20日、活発な討議を通じ
満場一致 闘う方針を確認！

12月20日、動労千葉各支部の先陣を切って千葉運輸区支部第二回定期大会が開催された。千葉運輸区支部は、本年4月24日支部結成をもちと、続く4月28日5月1日にかけて行われた、「本部」反動集団による大量破壊オルグ団に対し、全組合員の強固なスクラムのもと、闘い抜き、国労への逃亡、裏切りがでる中でも、毅然とした闘いを展開し、今日、その組織力、団結力は増々強固なものとなってきた。早朝から、大会破壊を狙う「本部」反動集団のいかなる妨害をも許さない万全な体制をとる中で、勤務明け、公休の組合員が続々と結集し、大会開始直前には、会場である千葉運輸区講習室は、組合員の力こもった顔でうめつくされていた。8カ月にわたる「本部」反動集団との熾烈な攻防戦に勝利し、激動の80年代を闘い抜く方針確立をめざした第二回定期大会は、こうして始められていった。

35万人体制と対決し、更に
団結して80年代を闘おう！

大会は、13時30分、鈴木執行委員の力強い開会宣言で始められた。

議長に、小島氏を選出した後、この一年間、支部の最先頭で闘い抜いた永田支部長が起ち、「当局は、35万人体制として、乗務員運用合理化、構内整備係の民託化攻撃をかけてきており、確実にマル生の時代が来る。我々は動労内革マルと闘い抜いて今日の大会が開催できた。更に団結して80年代を闘おう」と決意表明がされた。

来賓として参加した、本部執行部を代表し関川委員長は、この間の闘いに対する謝意と、厳しい情勢の中で二波のストを打ち抜いたことが、政府当局、反動分子を震撼させ全国で苦闘する労働者に限らない激励を与えていること。さらに、今日予想される報復的処分攻撃に対しても、断固闘う決意も含めてあいさつが行われた。

国鉄大合理化・年金問題など幅広い質疑ノ

議事に入り、経過報告、方針案、財政・予算案などが関副支部長、桜沢書記長よりそれぞれ提案され、質疑の中では、国鉄35万人体制の内容と年金問題、銚子、佐倉の現状と早期結成、全動労の会館敗訴と動労千葉との関係、裏切り分子十三名に対する追及行動等々の質疑が出された。

これに対し、本部・支部執行部より、裏切り者については追及を強化する、35万人体制は恐るべき合理化攻撃であり、国労・動労「本部」の逃亡を許さず闘うこと、「本部」再建情報のデマ暴露と会館問題の一〇〇%勝利の確信が明らかにされた。方針決定の後、新役員が満場一致で確認され最後に支部長の団結ガンバローによって、大会は成功のうちに終了した。

動労千葉の中軸としてノ

大会は、組合員一一五名中、九一名の結集をもつてかちとられた。

更に支部の団結力をより一層強固に打ち固め、35万人体制粉碎・三里塚・ジェット闘争を動労千葉の最先頭に起って闘う決意である。

- ・支部長・永田 雅章 (35)(電運士)
- ・副支部長・関 弘明 (41)(電運士)
- ・書記長・桜沢 明美 (33)(電運士)

動労千葉10大ニュース (その2)

オ2位 (57/72票)

公労委認知
かちとる(6/15)

ひびくや
インタビュー！
どう思いましたか？

● 結成後、ひとつの不安もあったが、信じていた。彼らのデマをふつとばし、かちえたことにみんな喜んだよ！
(館山・電運士・52才)

決定の日付 昭和54年6月15日

標記組合は、労働組合法第2条及び第5条第2項の規定に適合するものであることを証明する。

組合名 国鉄千葉動力車労働組合
事務所 千葉市要町2番8号
所在地

証 明 書 昭和54年資証第5号